

【証券コード：6728】

決算説明会資料

2018年度（FY2018）

第2四半期（累計）（2018年7月～2018年12月）

2019年2月14日

株式会社 アルバック

◆将来見通しに関する記述についての注意事項

このプレゼンテーション資料で述べられている将来の当社に関する見通しは、現時点で知りうる情報をもとに作成されたものです。当社グループのお客様であるFPD（フラット・パネル・ディスプレイ）・半導体・電子部品などの業界は技術革新のスピードが大変速く、競争の激しい業界です。

また、世界経済、為替レートの変動、FPD・半導体・電子部品・原材料などの市況、設備投資の動向など、当社グループの業績に直接的・間接的に影響を与える様々な外部要因があります。したがって、実際の売上高および利益は、このプレゼンテーション資料に記載されている予想数値とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。

◆本資料における表示方法について

（特段の記載がない限り、数値はすべて連結ベースです）

数値： 単位未満四捨五入

比率： 百万円単位で計算後、単位未満四捨五入

会計期間の表現：

2Q（累計）： 第2四半期連結累計期間

2Q： 第2四半期連結会計期間

□ 受注高 1,195億円（前年同期比▲18% 当初予想比▲0.4%）

- 前年同期比減少もほぼ当初計画通り（前年度下期比24%増）

□ 売上高 1,168億円（前年同期比▲7% 当初予想比▲7%）

- 太陽電池や半導体メモリ関連の客先投資計画変更等により計画未達

□ 営業利益 155億円（前年同期比▲17% 当初予想比▲21%）

- 売上高未達の影響等により計画未達

□ 足元の状況を反映し、2019年6月期通期の業績見通しを下方修正

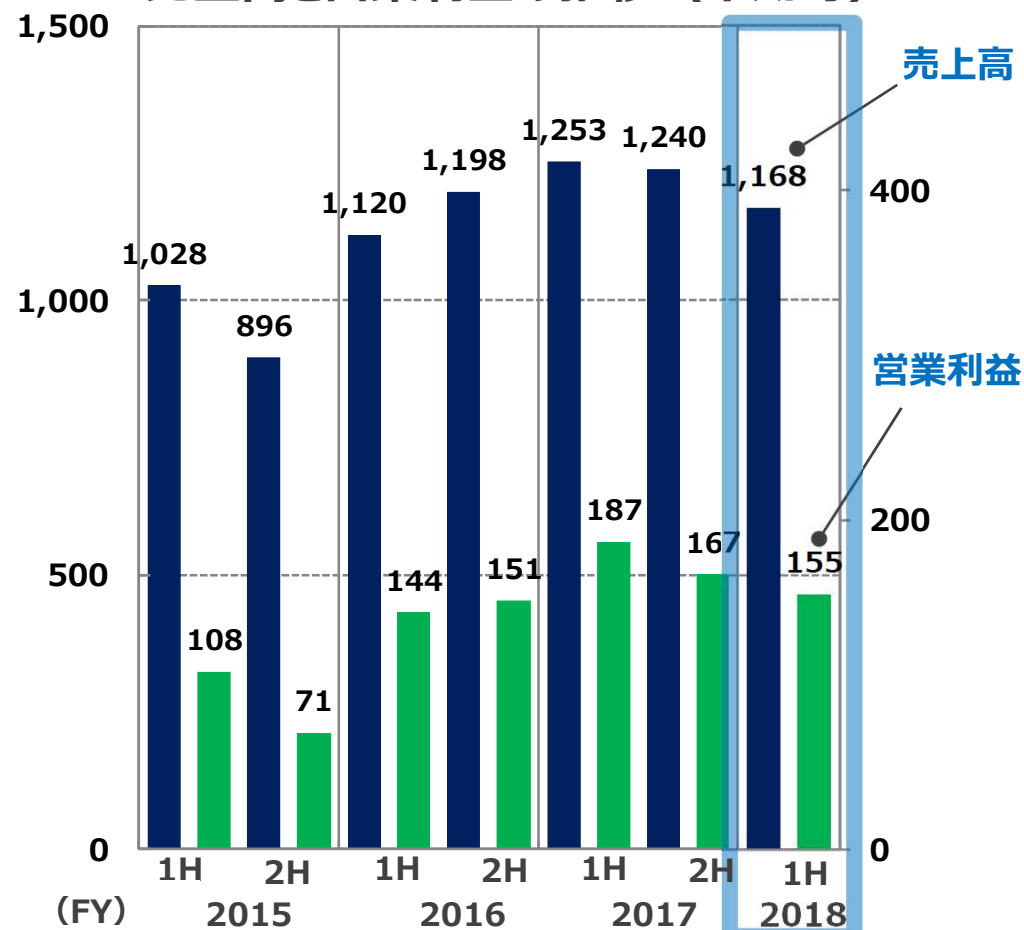
2018年度2Q（累計）連結業績概要

- 受注高：前年同期比減少もほぼ当初計画通り
- 売上高：売上貢献が早い受注案件（太陽電池、半導体等）の減少、納期の関係等で売上貢献にタイムラグのある受注増加により、売上高は計画未達
- 営業利益：売上高未達の影響等により計画未達

【単位：億円】

	(参考)	当初予想	2018年度2Q（累計）		
	2017年度 上期実績		実績	対前年同期 増減率	当初予想比 増減率
受注高	1,463	1,200	1,195	-18.4%	-0.4%
売上高	1,253	1,255	1,168	-6.8%	-6.9%
売上総利益	371	-	348	-6.3%	-
率	29.6%	-	29.8%	+ 0.1 pt	-
販管費	184	-	193	4.7%	-
営業利益	187	195	155	-17.2%	-20.6%
率	14.9%	15.5%	13.3%	- 1.7 pt	- 2.3 pt
経常利益	197	200	164	-16.7%	-18.1%
率	15.7%	15.9%	14.0%	- 1.6 pt	- 1.9 pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	163	140	112	-31.2%	-19.8%
率	13.0%	11.2%	9.6%	- 3.4 pt	- 1.5 pt

売上高と営業利益の推移（半期毎）

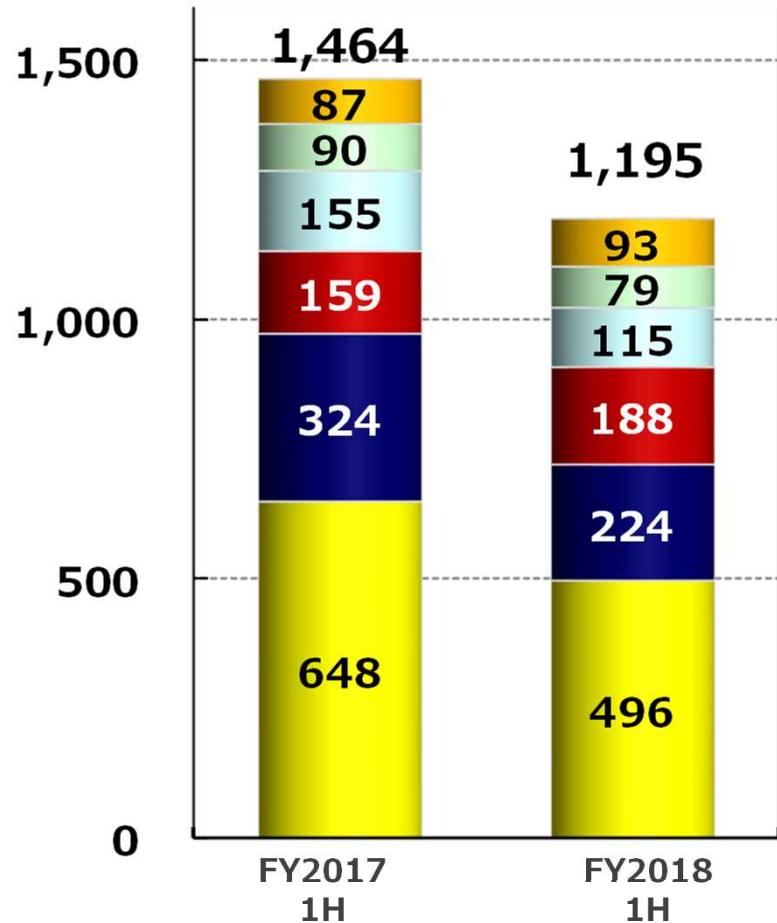


2018年度2Q（累計）連結業績概要（品目別受注高）

- FPD・PV製造装置：前年同期比減少するが、当初想定を上回る水準
- 半導体・電子部品製造装置：半導体メーカーの投資計画延期等の影響で前年同期比減少。電子部品向けは堅調
- 連結受注は前年同期比減少もほぼ当初計画通り

前年同期比

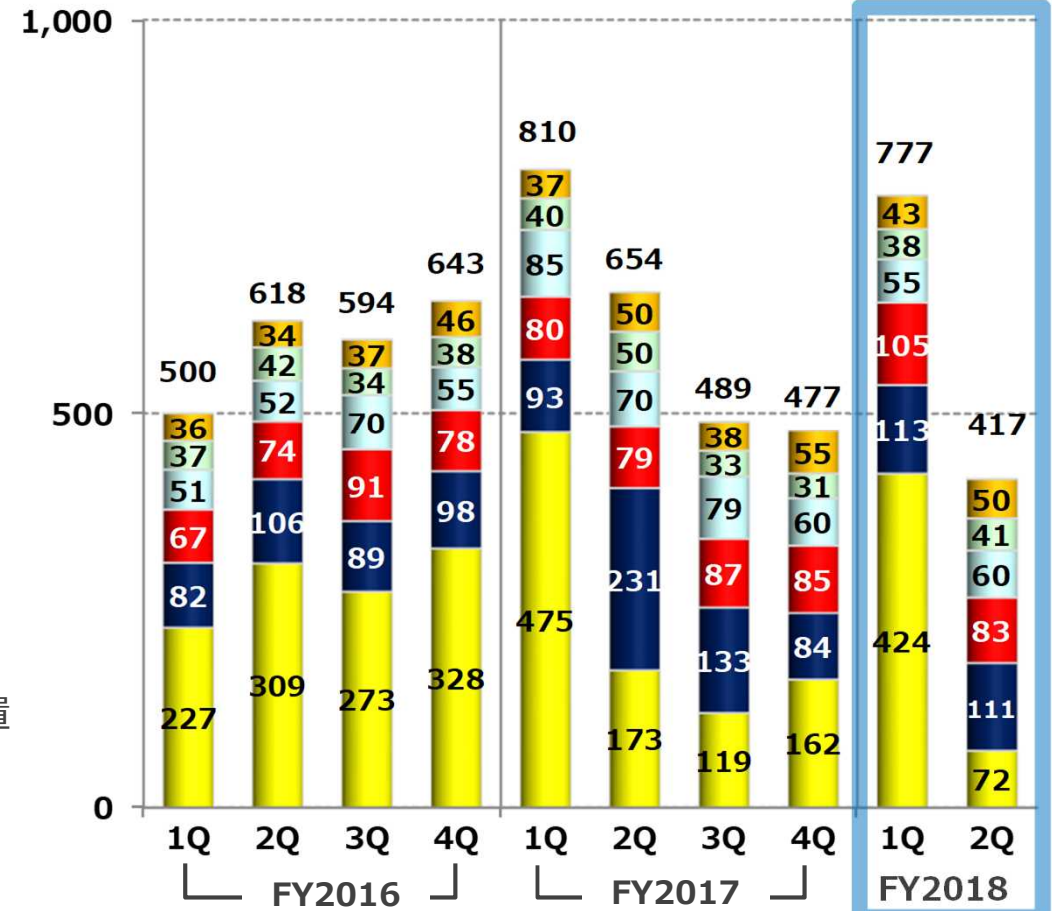
【単位：億円】



- その他
- 材料
- 一般産業用装置
- コンポーネント
- 半導体及び電子部品製造装置
- FPD及びPV製造装置

四半期推移

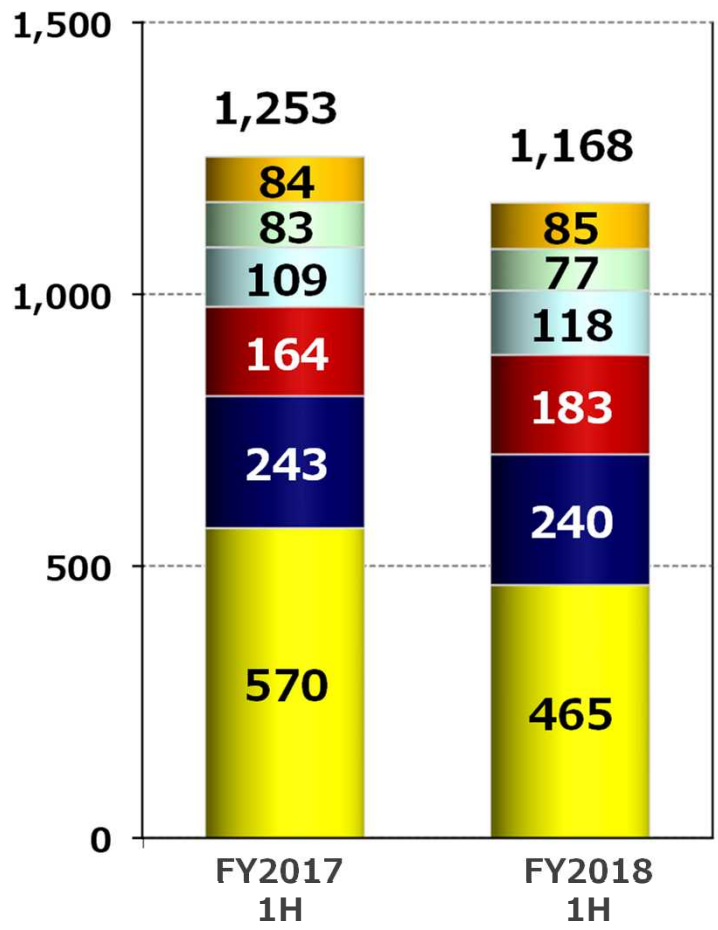
【単位：億円】



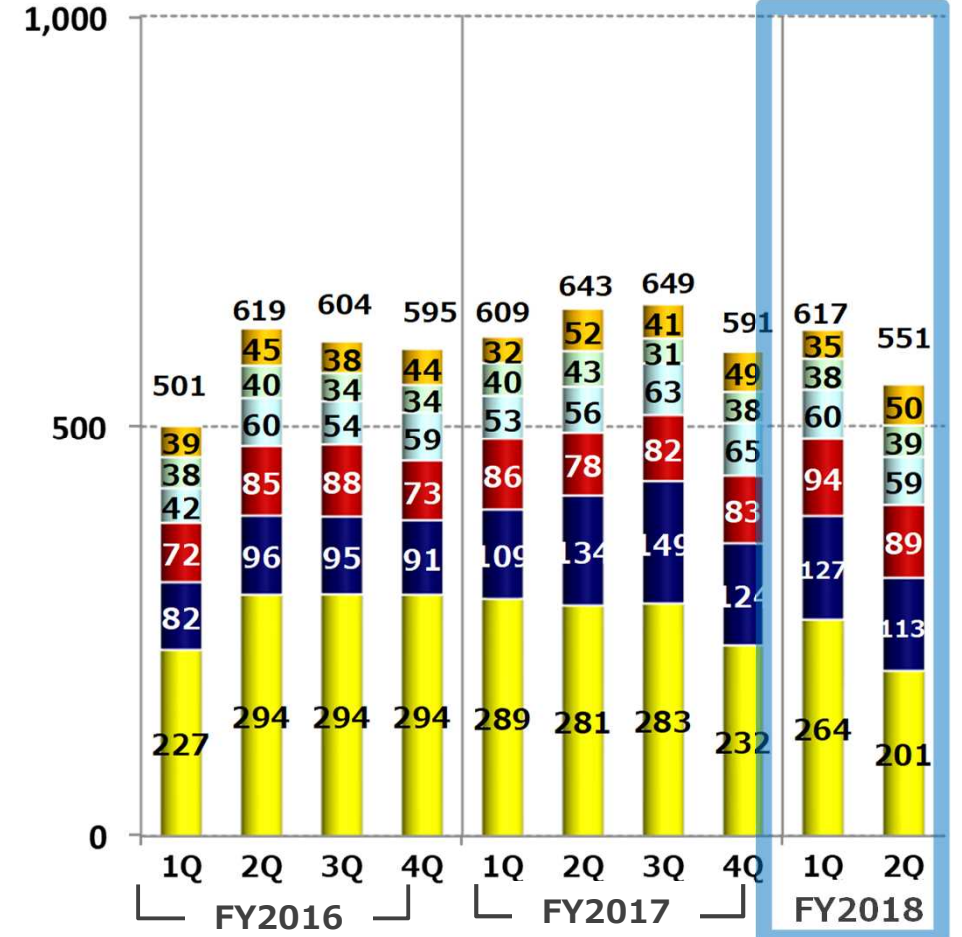
2018年度2Q（累計）連結業績概要（品目別売上高）

- FPD・PV製造装置：受注案件の入れ替わりにより、売上貢献にタイムラグのある受注が増加し、売上は当初想定を下回り、前年同期比でも減少
- 半導体・電子部品製造装置：半導体向けは減少も、通信関連やパワーデバイス等の電子部品向けが寄与、前年同期並みに

前年同期比 【単位：億円】

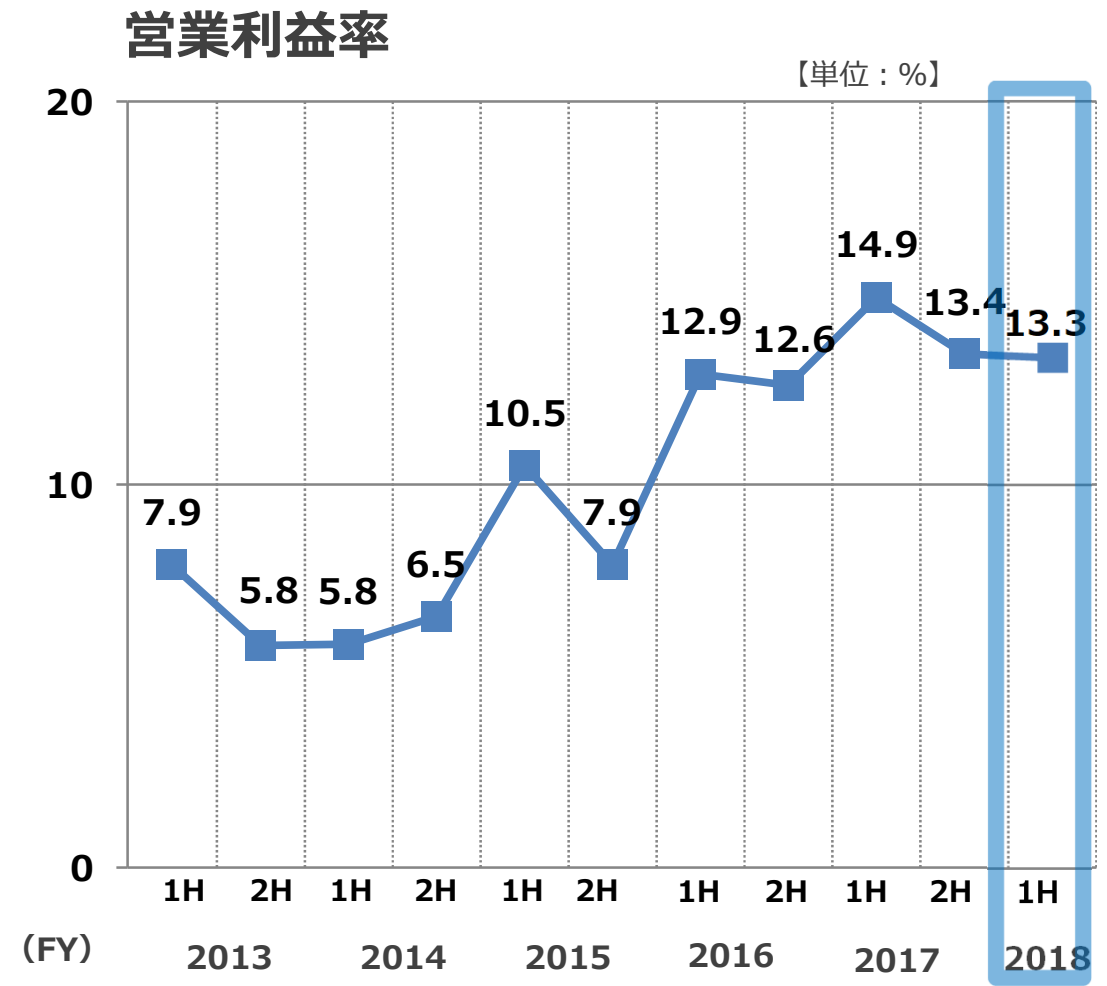
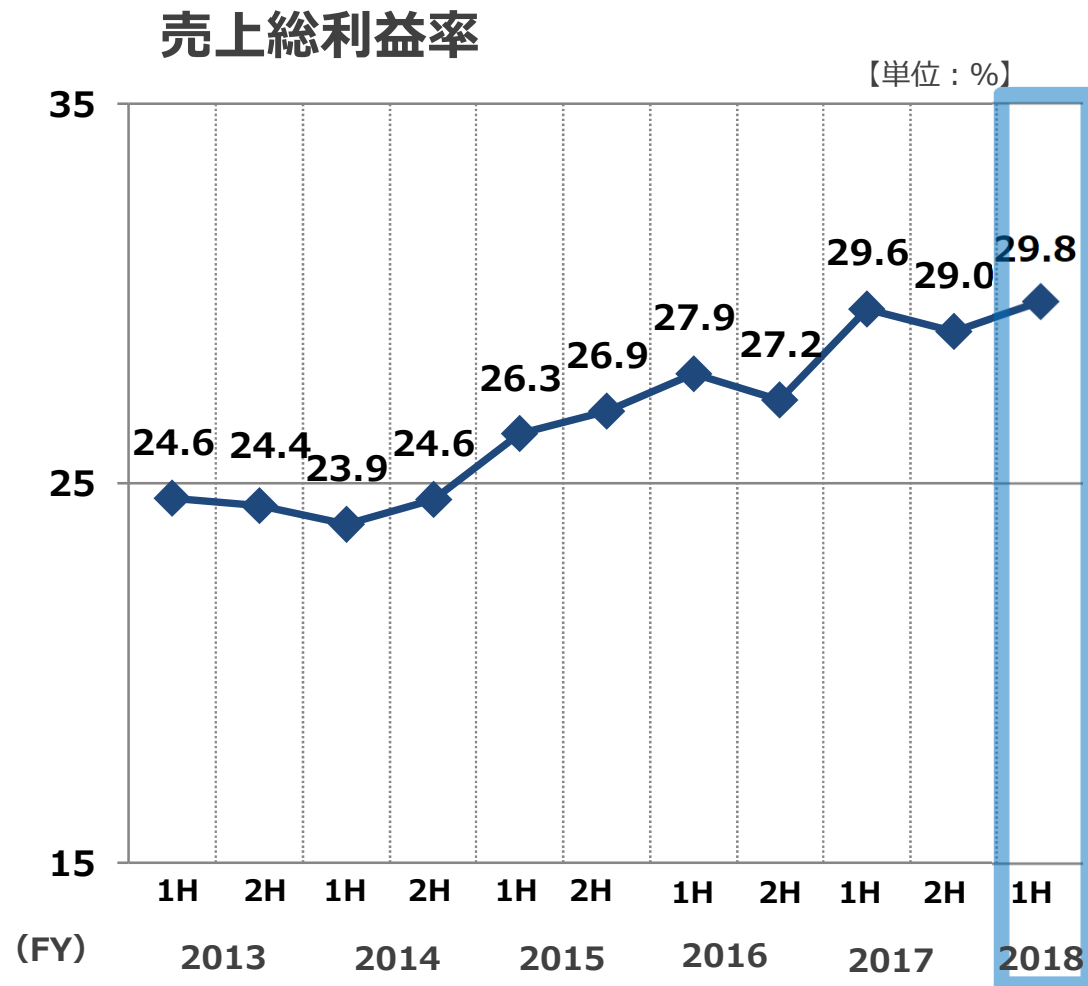


四半期推移 【単位：億円】



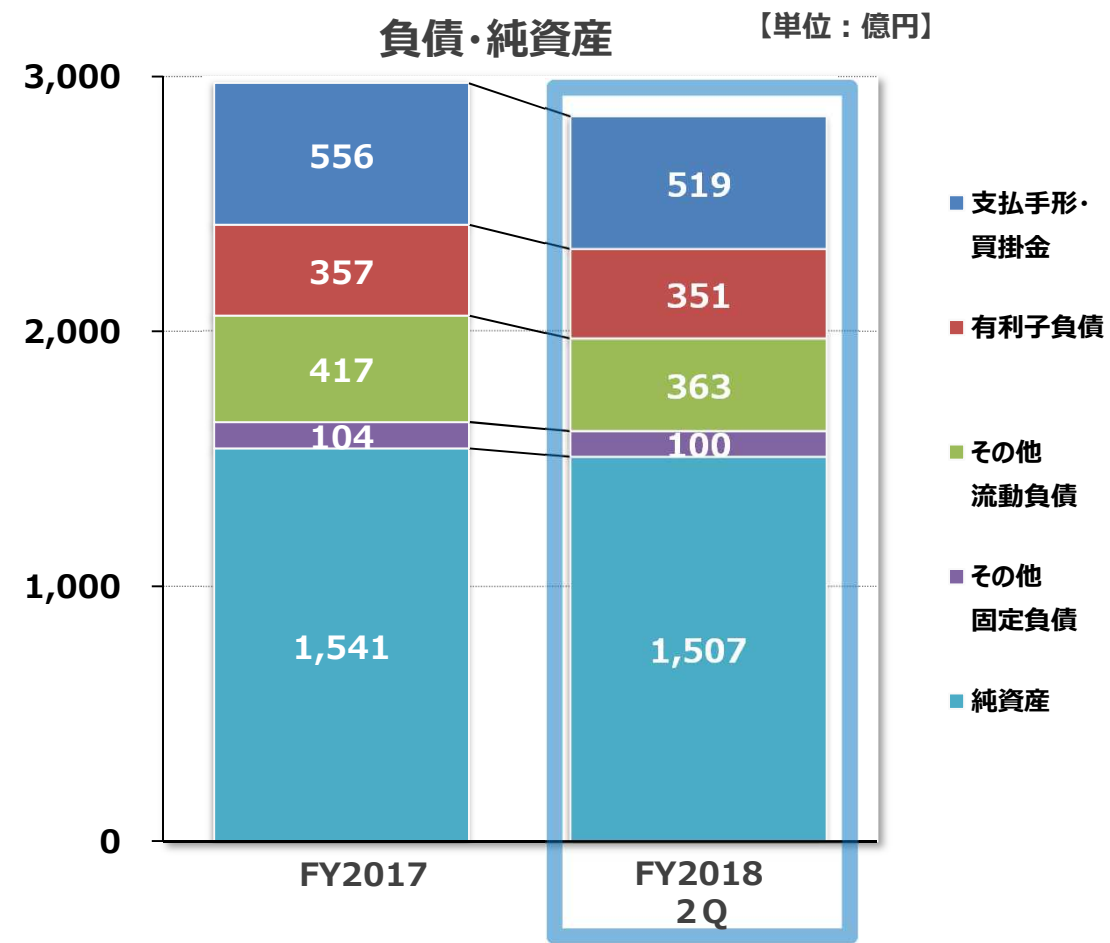
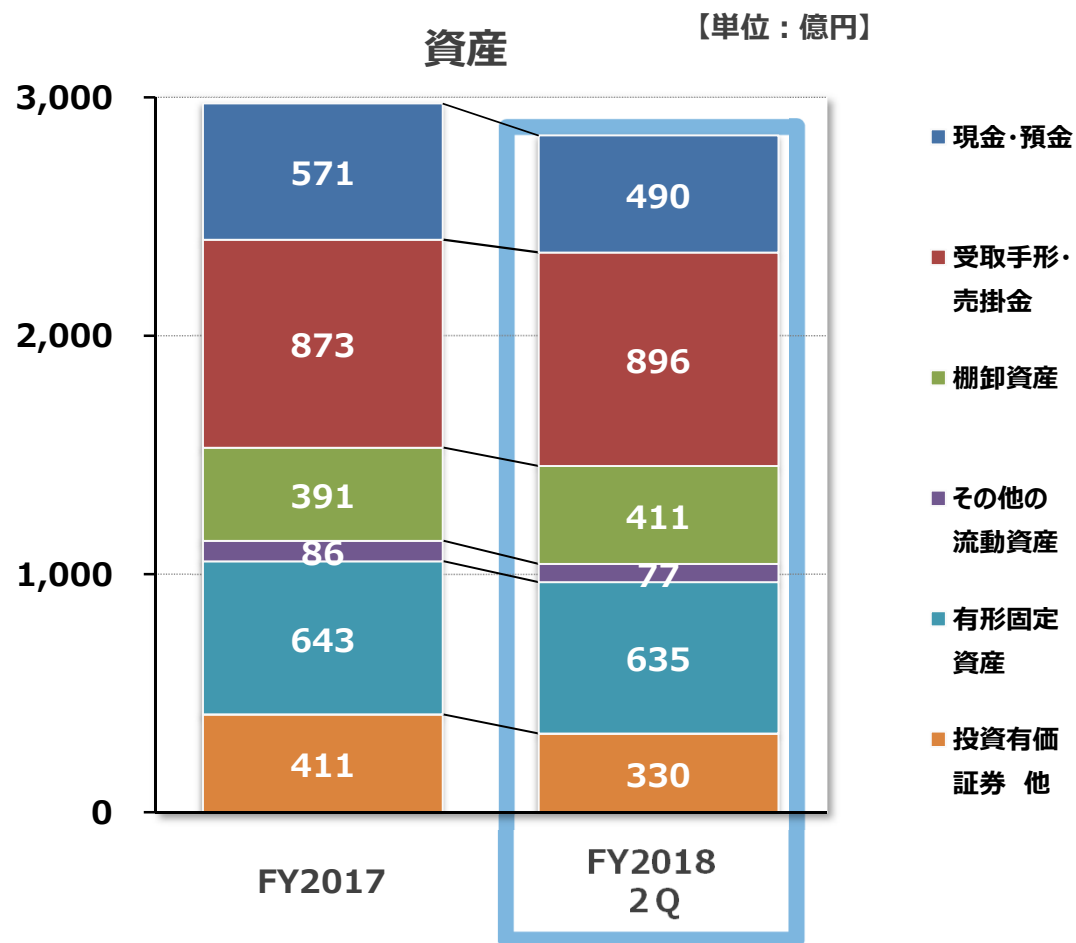
2018年度2Q（累計）連結業績概要（利益率）

- 売上総利益率は上昇も、売上高の減少もあり、営業利益率は横ばい。引き続き高い水準を維持



2018年度2Q（累計）連結業績概要（連結貸借対照表）

- 受取手形・売掛金23億円増加、棚卸資産20億円増加、支払手形・買掛金36億円減少と運転資金が増加し、現金・預金が80億円減少。
- 自己資本比率は50.9%に改善。



当社を取り巻く市場環境と取り組み

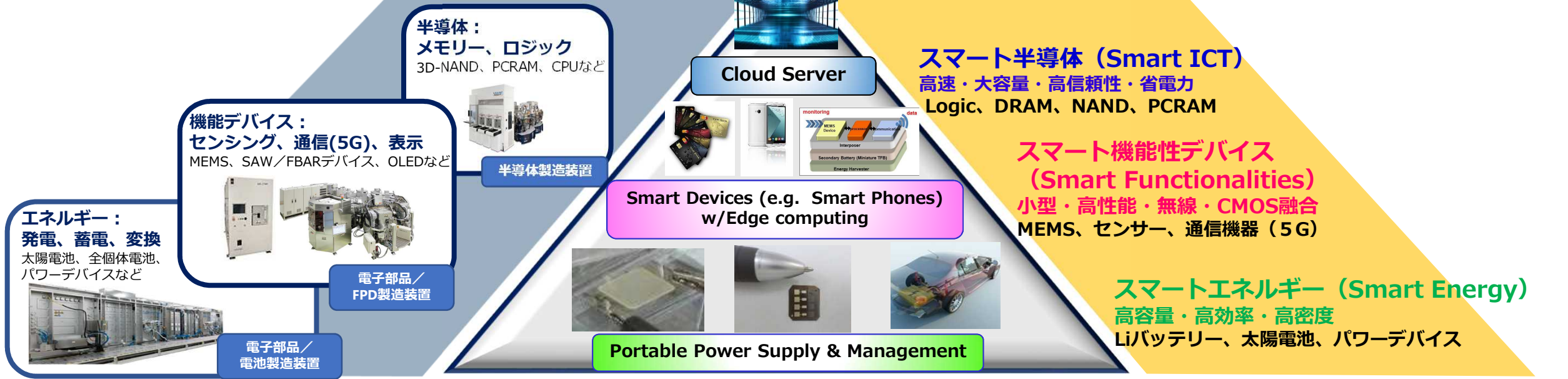
当社を取り巻く市場環境

- スマート社会の実現にアルバックの真空薄膜技術が不可欠

スマート社会

スマート社会を実現するテクノロジー (スマートシステム)

アルバックの製造装置 スマートシステムに必要なキーテクノロジー

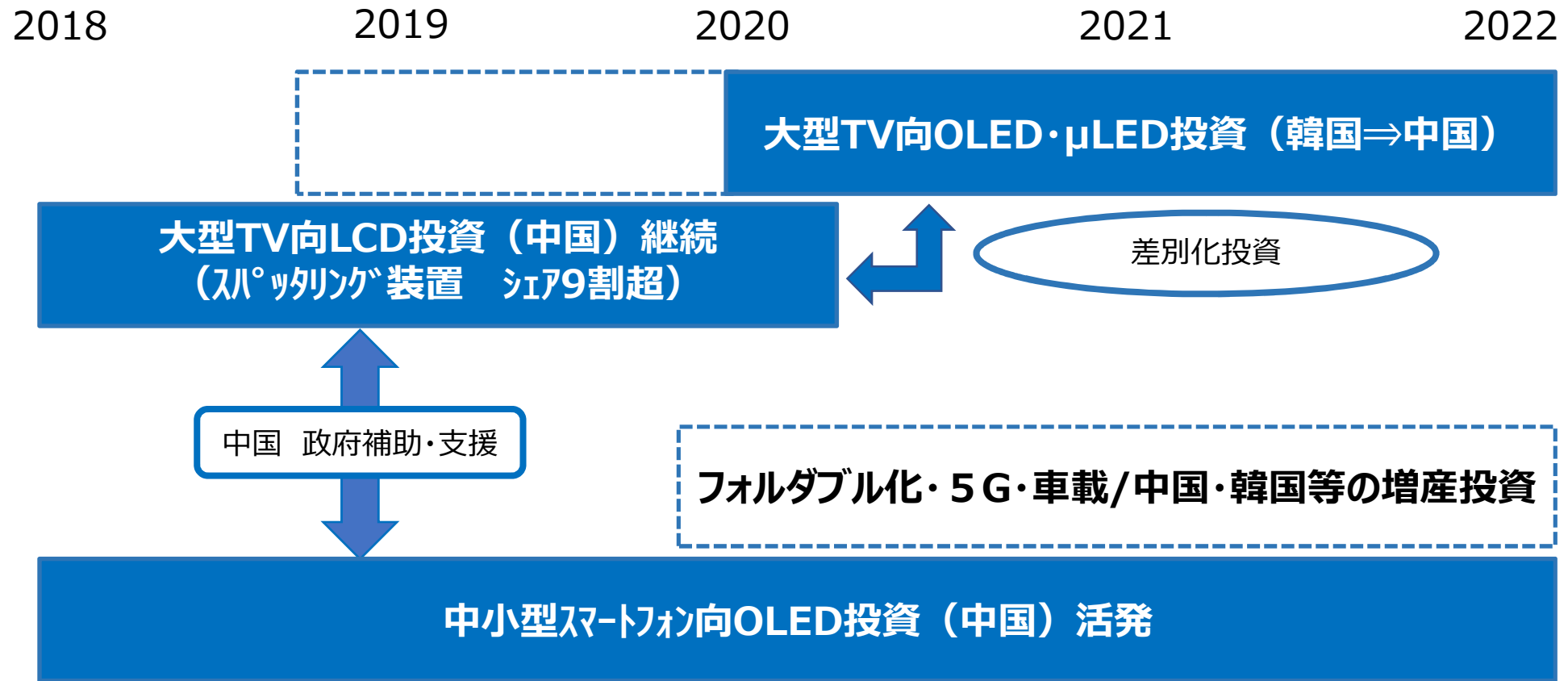


FPD・PVの市場環境と当社の取り組み（1）

- 中国の大型TV向けLCD投資が継続し、G10.5TFTアレイ向けスパッタリング装置は当社が9割超を受注。下期にも受注を見込み、2020年まで売上貢献
- 韓国では中国の大型LCDとの差別化のため、大型TV向けOLEDやμLEDへの取り組みを開始
- 中国のスマートフォン向けOLED投資も継続。複数客先で立ち上げが進み、第2フェーズの受注も確実化
- 太陽電池関連の投資計画延期等、売上貢献が早い受注が減少する一方、納期の関係等で売上貢献にタイムラグのある受注が増加、上期受注はほぼ計画通りだったが、売上は当初予定を下回る
中国の太陽電池関連投資や韓国の大型TV向けOLED投資の延期等により、
下期受注は当初想定を下回る見込み
- スマートフォン向けOLED、大型TV向けLCDは中国中心に投資が継続、大型TV向けOLED等次世代に向け開発を加速

FPD・PVの市場環境と当社の取り組み（2）

- スマートフォン向けOLED、大型TV向けLCDは中国中心に投資は継続、大型TV向けOLED等次世代に向け開発を加速

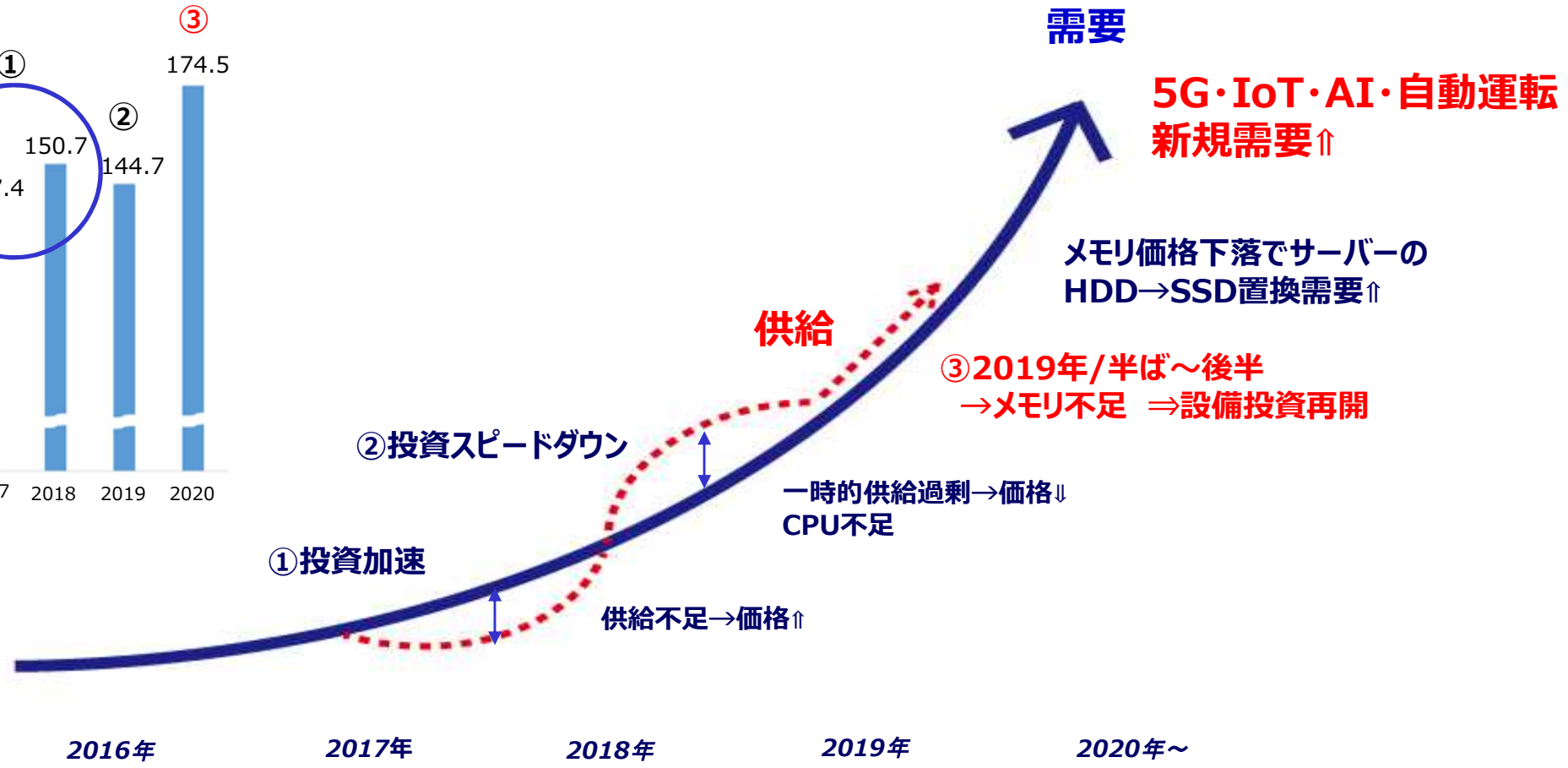
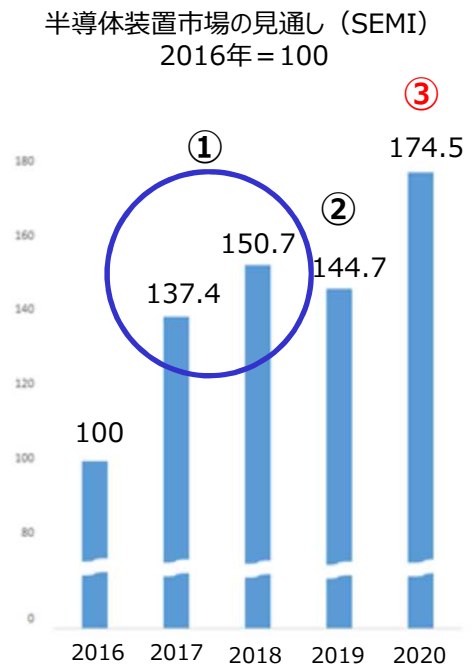


半導体の市場環境と当社の取り組み（1）

- DRAM・NANDは、需要増に伴う供給不足に対応した17年～18年の活発な設備投資、CPU不足等により、足元は一時的な供給過剰となり、上昇していたメモリ価格が下落
- 18年末にかけメモリ各社の設備投資延期の動きが想定以上に広がり、下期にも影響。上期の落ち込みは想定していたものの、下期からの回復を見込んでいたため、受注・売上予想を大幅に下方修正
- メモリ向け設備投資はデータセンター需要が回復する19年央～後半の回復を見込む
- 今期より新たにEUV導入による最先端微細化工程でロジックラインに参入。微細化に追従するロジック・ファブリーメーカーへの展開で成長
- 従来のNAND・DRAMに加え、ロジック・PcRAMで新たな市場を開拓・成長

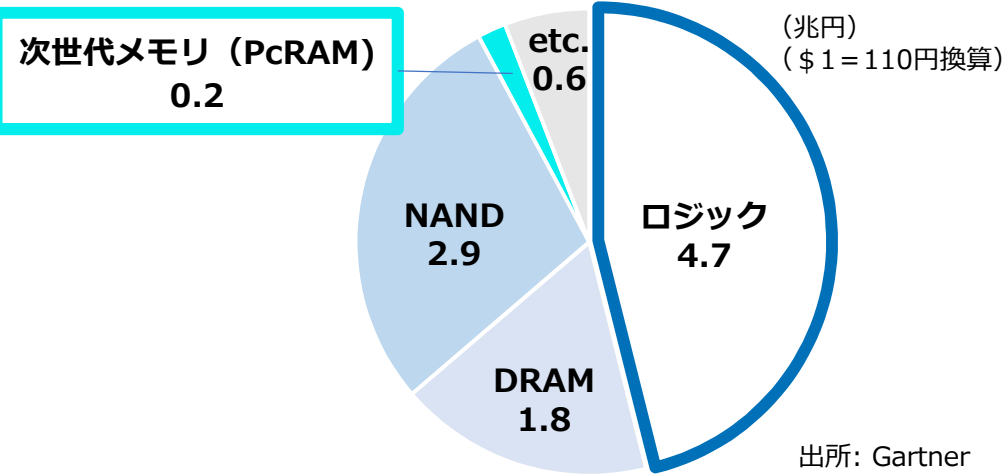
半導体の市場環境と当社の取り組み (2)

・ スマート社会実現に向けて半導体設備投資は再度活発化

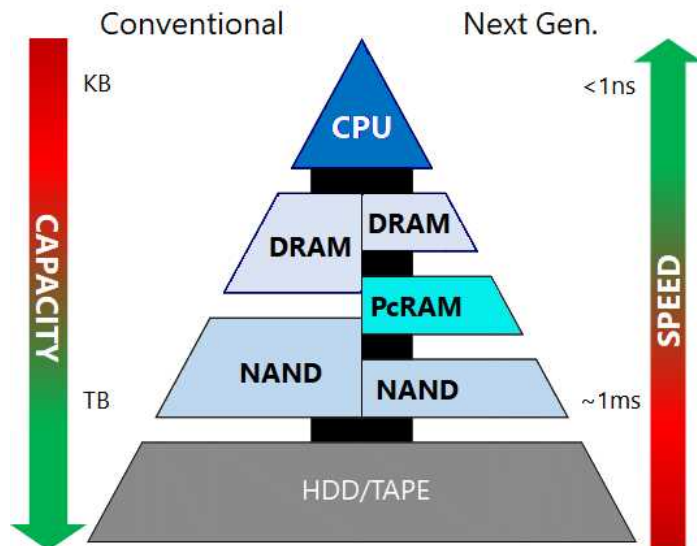


半導体の市場環境と当社の取り組み (3)

半導体設備投資額 (2017年)



➡ **ロジック (CPU)**
メモリ (DRAM・NAND) と並ぶ投資規模の
ロジック分野への参入に成功
微細化に追従するロジック・ファブリーメーカーへの
展開で成長



➡ **次世代メモリ (PcRAM)**
PcRAMはフラッシュメモリ (NAND)
よりスピードが速く、DRAMと比べ不揮発性である特長を
もつ「DRAMとNANDの中間に位置する」メモリ

サーバーの「DRAMベースDIMM」からの置換需要に対応
他メモリメーカーも参入を検討中で今後の市場拡大に期待

電子部品の市場環境と当社の取り組み（1）

- IoT及びCASEの本格普及に向けて、電子部品需要は増加 — 製造装置市場もビジネスチャンスが拡大

通信デバイス

5G向け通信用途の需要拡大

センサー

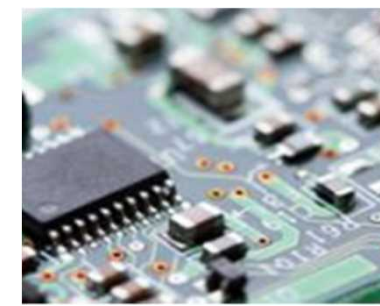
車載・顔認証・指紋認証向けの需要拡大

パワーデバイス

EV/車載向けパワー半導体の需要拡大

高密度実装

実装の高密度・小型・高性能化の需要拡大



電子部品の市場環境と当社の取り組み（2）

電子デバイスの小型化／微細化／高密度化／大容量化／省エネ化

⇒豊富な装置ラインナップで対応、スパッタリングターゲット材料やプロセスも合わせて提供



上記デバイスのラインアップ充実のため、Oxford社ALD・ALE装置の国内販売権取得（19年1月）

< コンポーネント >

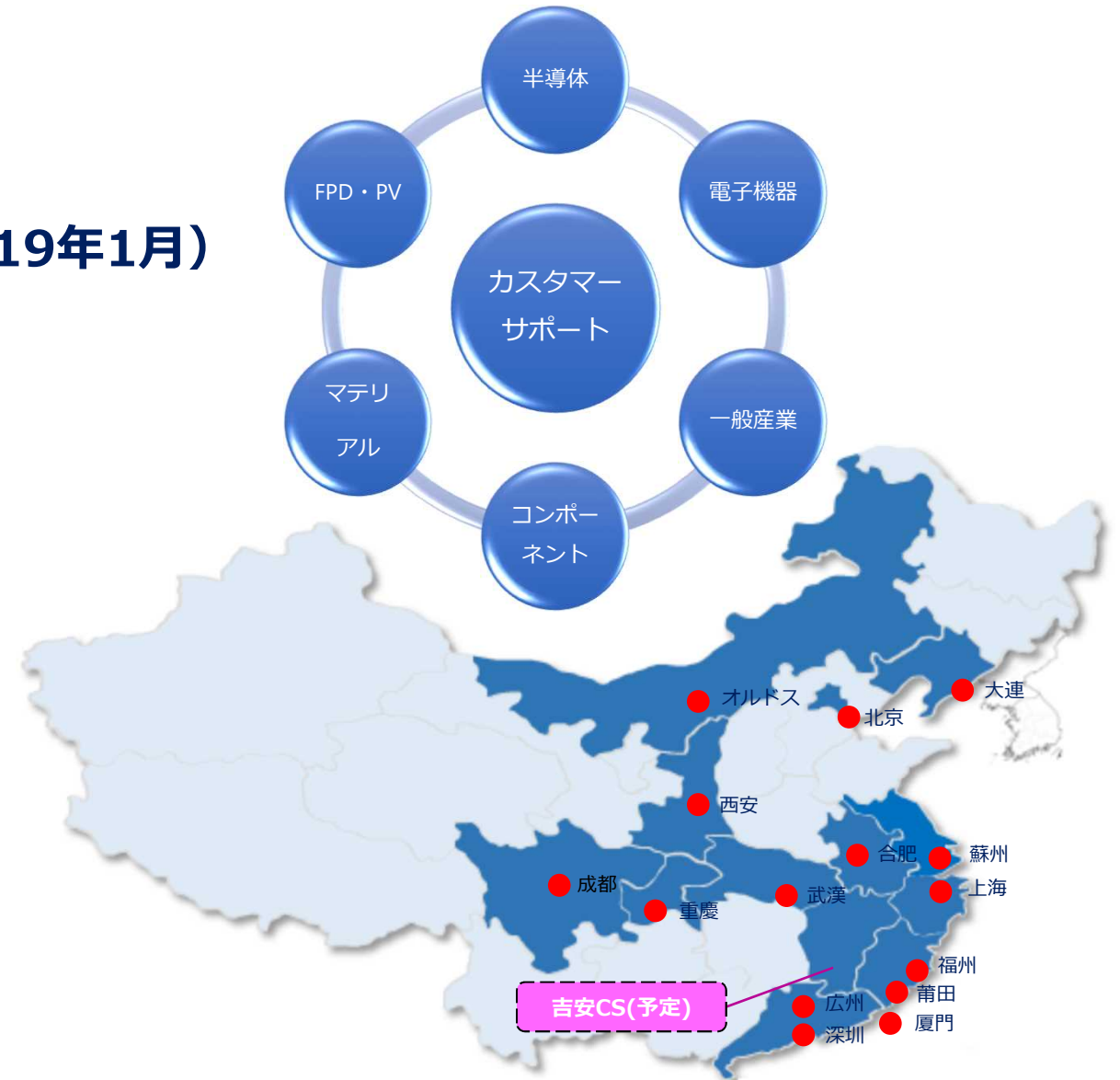
- 下期は半導体メーカーの投資延期の影響を受けた半導体装置メーカー等向け受注の減少を見込む
- グループシナジーの発揮や中国マーケットでの拡販等を目指す

< マテリアル >

- 韓国のスマートフォン向けOLEDのバックプレーン用のターゲットが低調で受注・売上の減少を見込む
- 中国で稼働が始まる大型TV向けLCDパネル製造装置用のターゲットの拡販を推進

カスタマーサポートへの当社の取り組み

- アルバック本社内にカスタマーサポート本部を新設（19年1月）
→ 製品・製造・生産・サービスの統合により、顧客価値を高めるサービス提供を目指す
- 中国国内サービスセンター16カ所へ拡充
→ 半導体・電子機器顧客へのサービスを強化
- IoT・ビッグデータ・AIを活用した新たなカスタマーサービスアプリケーションの構築



2018年度下期業績予想

- 下期受注は、

- ①メモリ各社の設備投資延期の動きが想定以上に広がり下期にも影響するため、半導体関連の受注が100億円程度
- ②中国の太陽電池関連投資や韓国の大型TV向けOLED投資の延期に伴うFPD関連の受注190億円程度
- ③コンポーネント、一般産業、材料それぞれで20億円前後等

当初予想比で合計345億円下回る見込み

- 受注の減少を受け、売上も当初予想比213億円下回る見込み

- 営業利益は売上減少に加え、OLED関連等開発的要素の高い案件のコスト増加が見込まれることもあり、80億円（当初予想比▲90億円）を見込む

【単位：億円】

	2018年度				
	上期		下期予想		
	当初予想	実績	当初予想	今回予想	当初予想比増減
受注高	1,200	1,195	1,400	1,055	-345
売上高	1,255	1,168	1,295	1,082	-213
営業利益	195	155	170	80	-90
率	15.5%	13.3%	13.1%	7.4%	- 5.7 pt
経常利益	200	164	175	86	-89
率	15.9%	14.0%	13.5%	8.0%	- 5.5 pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	140	112	115	48	-67
率	11.2%	9.6%	8.9%	4.4%	- 4.5 pt

2018年度通期業績予想の修正

- 上期における売上高及び各利益項目の未達に加え、FPD及びPV製造装置や半導体製造装置等の受注減少による売上高及び営業利益の減少が見込まれるとともに、開発要素の高い案件のコスト増加が見込まれることもあり、売上高及び各利益項目を下方修正
- 2019年6月期の期末配当予想に変更はなく、現時点では2018年8月8日の配当予想を据え置きます。

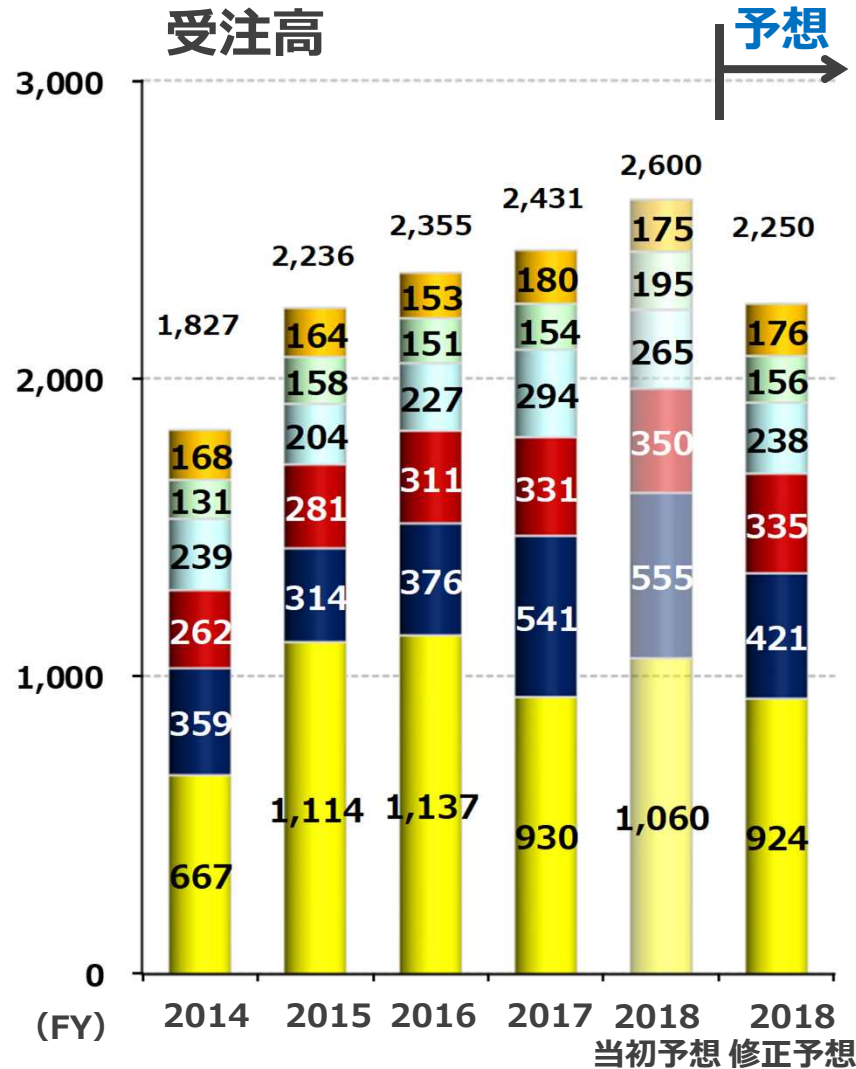
【単位：億円】

	(参考) 2017年度 通期実績	2018年度				
		2Q累計		通期		前年同期比
		当初予想	実績	当初予想	今回予想	
受注高	2,430	1,200	1,195	2,600	2,250	-7.4%
売上高	2,493	1,255	1,168	2,550	2,250	-9.7%
営業利益	354	195	155	365	235	-33.5%
率	14.2%	15.5%	13.3%	14.3%	10.4%	- 3.7 pt
経常利益	369	200	164	375	250	-32.3%
率	14.8%	15.9%	14.0%	14.7%	11.1%	- 3.7 pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	359	140	112	255	160	-55.4%
率	14.4%	11.2%	9.6%	10.0%	7.1%	- 7.3 pt

(前年度の繰越税金資産や株式売却益の計上等によるプラス効果がなくなり、当期純利益の前年比減少率は他の利益項目に比べ大きい)

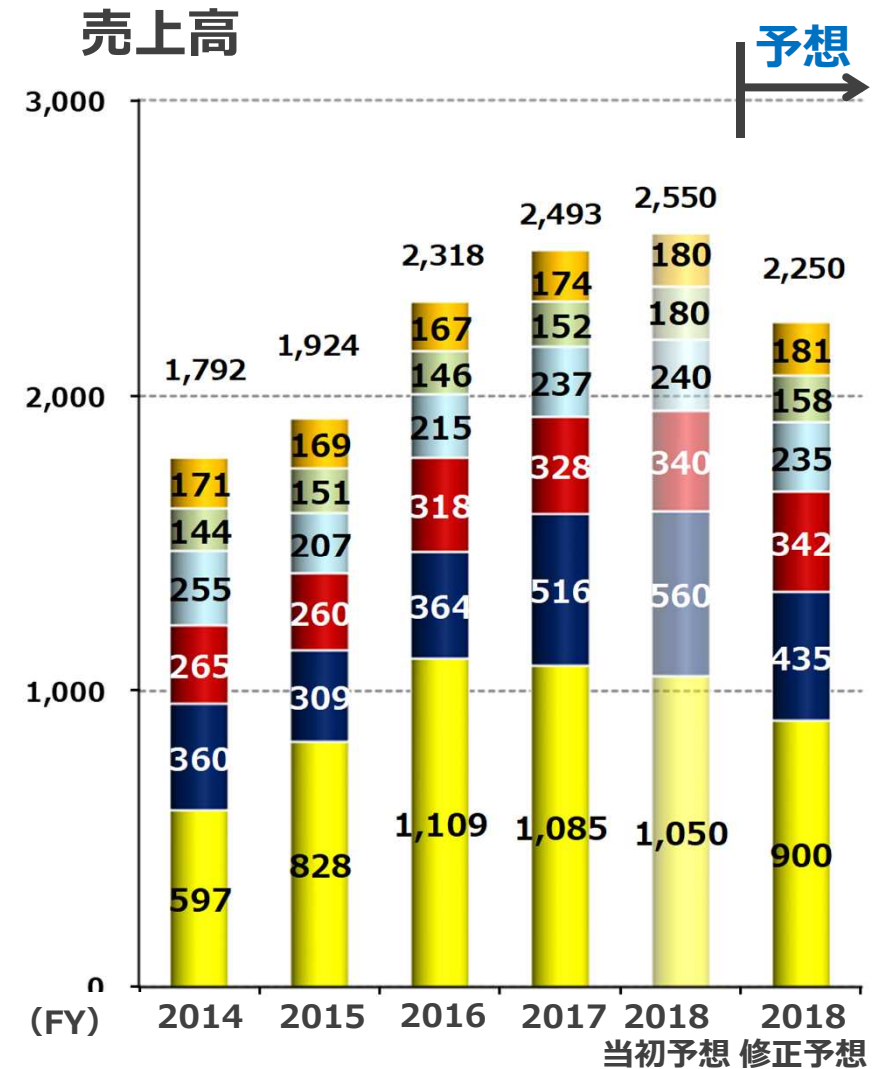
2018年度通期業績予想の修正（品目別 受注・売上）

【単位：億円】



- その他
- 材料
- 一般産業用装置
- コンポーネント
- 半導体及び電子部品製造装置
- FPD及びPV製造装置

【単位：億円】



さまざまな業界・用途で貢献するアルバックの真空技術



Automobile
自動車



Semiconductor
半導体



Flat Panel Display
フラットパネルテレビ



Photovoltaic
太陽電池



Food Processing
食品



Aircraft
航空



Bio
バイオ



Smart Phone
スマートフォン



Magnetic Device
磁気デバイス



Home Appliance
家電製品



Aerospace
宇宙産業



Pharmaceutical
医療・薬剤



Wearable/VR
ウェアラブル/VR



Power Device
パワーデバイス



MEMS Device
MEMS デバイス



Architectural Glass
建材・スマートガラス



Optical
光学



Flexible
フレキシブル



Packaging Materials
パッケージング



Next Generation Light
次世代照明

真空テクノロジーで
「つくる」をつくる

ULVAC